

「ちがいを通して「共に生きる社会」について考えよう」

勤務先・名前：兵庫県教育委員会事務局人権教育課 指導主事 ・ 古角 美之
 実践教科：総合的な学習の時間
 指導時数：全8時間
 対象学年：中学生～高校生

1. カリキュラム

(1) 実践の目的

国際化が進展していく社会の中で、異なる宗教、習慣等の文化を互いに尊重しながら、「共に生きること」を追求する意識や姿勢を育てる。

参加体験型学習の手法により、「表現し議論する力」、「偏見を見抜き公正な結論を導き出す力」、「ちがいを受容し人間関係を築く力」、「集団的非暴力的に問題を解決する力」等を育成する。

すべての人が人間らしく幸せに生きる権利を有することについて認識する。

(2) 授業の構成

時限	ねらい	内容(方法を含む)	使用教材、収集物等
1 2	海外の写真や物品から、それらのものに込められた情報やメッセージを探るとともに、貿易ゲームにより公正や公平でない立場を疑似体験する。	(1) フォト・ランゲージ (2) KJ法 (3) ブレイン・ストーミング (4) 貿易ゲーム	インドネシアで撮影した写真 模造紙、付箋 はさみ、定規、コンパス、三角定規、分度器、紙、お札等
3 4 5	海外技術研修員や留学生の講話、民族衣装の試着、民族料理の調理体験など、自らの体験により新しい気づきを生み出すとともに、国際協力のスタッフとして途上国でどのような活動を行うことができるかを、与えられた情報からシュミレーションする。	(1) ビデオ視聴 (2) 海外技術研修員の招聘 (3) ワールドグッズの活用 (民族衣装、道具、教科書など) (4) 民族料理の調理体験	インドネシアで撮影したVTR 海外技術研修員(JICA兵庫) 子ども多文化共生センター インドネシア料理のレシピ
6 7 8	自分たちのできる国際協力について考え行動するとともに、ワークショップやシュミレーションで得た意見や考えを相互に発表し合う。	(1) 生徒会活動 広報活動、募金活動等 (2) ランキング (3) ディスカッション	文化祭などの学校行事

2. 授業の詳細

1～2時限目

海外の風景を写し撮った1枚の写真や1個の食料品のパッケージから情報やメッセージを読み取る練習をするとともに、自分の答えに隠されている先入観や固定観念に気づく。

世界貿易における途上国や紛争時の難民の状況を、漠然とイメージするのではなく、疑似体験の中で感じ取り、その不公平感や悔しい思いを通して、実際の社会でその立場にいる人々に思いを寄せ、共感的に理解をする。

3～5時限目

実際に本物を体験することにより、新しい気づきや課題を発見する。

国際協力へのかかわりを主体的立場で考える。

問題の認識、対処方法の確認、現実的な方法や行動範囲を援助を必要としている側の人たちを巻き込んで計画する。

6～8時限目

日常生活の中から継続してできることを実践する。

自分の意見を正確に多くの人たちに伝える。

他の人の意見や考え方を認める。

自由に意見や考え方を表明できる雰囲気をつくる。

3. 留意点

- ・さまざまなアクティビティーや疑似体験活動を通して、感じたことや気づいたことを交流し合うことが、価値観や視野を広げるために必要であることに気づかせる。
- ・ワークショップの手法のみの紹介(学習)にとどまることのないように、「私」の立場で考え話すことができるよう配慮する。
- ・他国の文化とともに、自国の文化についてもふりかえる機会をもち、互いの文化を尊重する姿勢を身につけさせたい。

4. 参考

(1) 「貿易ゲーム」

貿易ゲームとは

資源(紙)や技術(道具)を不平等に与えられた複数の国家(グループ)の間で、できるだけ多くの富を築くことを競う、貿易のシュミレーション・ゲーム

ねらい

同じルールの下でも、あらかじめ不平等な初期条件を設定しておくことで、豊かなグループはより豊かに、貧しいグループはより貧しくなるというように、経済格差が拡大していく仕組みを現実の自由貿易システムと比べながら、体験的・共感的に理解する。

(2) 「シュミレーション・ゲーム『バーンガ』」(“少数派の気持ち”)

ルールの異なる集団の中において、少数派の気持ちを体感することを通して、外国人の児童生徒の立場に立って考えることの大切さに気づき、学校において教職員がどのような支援を行っていくべきかについて考えるアクティビティー。